

いのち THEIR LIVES WERE TOO SHORT.
生命のメッセージ展
in 京都先端科学大学

生命のメッセージ展とは、

殺人、悪質な交通事故、一気飲ませ、いじめ等により理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役＝メッセンジャーとなり、「未来へつなげる命」を守るためのメッセージを伝えるアート展です。

▶ **Messenger: メッセンジャー**

このメッセンジャーとは、犠牲者の方の等身大の人型パネルであり、このパネルには、生前の写真とメッセージ文を添え、足元に遺品の「靴」（足跡＝生きた証）を置いて、無念にも命を喪い、生きたくても生きられなかった犠牲者から「未来へつなげる命」を守るためのメッセージを伝えるものです。



「亀岡集団登校交通事件」とは

2012年4月23日朝、京都府亀岡市の府道で、市立安詳小学校の集団登校の列に、当時18歳だった無免許の少年が運転する軽乗用車が突っ込み、小谷真緒さん(当時7歳)、横山奈緒さん(当時8歳)と付き添いで妊婦だった松村幸姫さん(当時26歳)と胎児が死亡、児童7人が重軽傷を負った事件。

シンポジウム「絶望とともに歩んだ先に」

参加申込不要

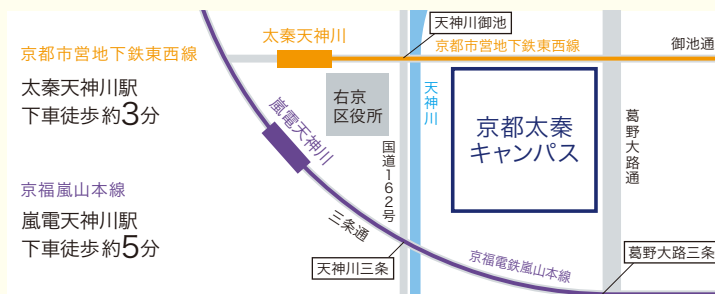
日時

2022年4月23日(土) 13:00~16:30

(受付は12:30より)

場所

京都先端科学大学
京都太秦キャンパス
南館 嵯峨野ホール



第1部

13:00~14:30 講演「被害者の声を届ける」

小谷真樹・中江龍生(亀岡交通事件遺族)



第2部

14:45~16:30 パネルディスカッション

テーマ:遺族と考える「償い」

コーディネーター: 広瀬 一隆 氏(京都新聞社)

パネリスト: 石塚 伸一 氏(龍谷大学法学部教授)

仲 律子 氏(公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター副理事長)

中江 美則 氏(亀岡交通事件遺族・更生保護団体ルミナ代表)

高田 絵里 氏(亀岡交通事件遺族)

主催

「生命のメッセージ展in京都先端科学大学」実行委員会、京都交通事故被害者の会『古都の翼』、特定非営利活動法人いのちのミュージアム

後援

京都府、京都市、亀岡市、京都府警察本部、公益社団法人京都犯罪被害者支援センター、文部科学省、法務省、警察庁、国土交通省など

協力

アート引越センター